

皮膚科（選択）

研修科	皮膚科（選択）
責任者	教授 川田 暁
指導医数	4 名
研修期間	4 週間 ～ 32 週間
受入可能人数	2 名
到達目標	<p>I 到達目標</p> <p>医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。</p> <p>II 全般的目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師としての倫理観・責任感・使命感をもって行動できる。</li> <li>2. 皮膚科プライマリ・ケアを実践できる基本的診療能力（知識、技能、態度）を身につける。</li> <li>3. 医療における安全管理の方策を理解し、患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行できる。</li> <li>4. 医療チームの構成員としての医師の役割を理解し、他のメンバーと協調して問題解決にあたることができる。</li> <li>5. 患者を全人的に理解し、患者・患者家族と良好な人間関係を確立し、予防を含む包括的なケアを提供できる。</li> <li>6. 医師としての社会的使命を自覚し、有限である医療資源を公平に配分し、効率的に使用することができる。</li> <li>7. 世界の医学研究の動向を理解し、最新の医学知識を修得するための英語能力を獲得し、国際保健の向上に貢献できる。</li> <li>8. 常に自らを省みて医学の研鑽と学習に励み、自己の向上に努める。</li> <li>9. 臨床活動の改善を目指し、見出した問題点の意義を検証し、研究課題を設定できる。</li> </ol> <p>III 皮膚科独自の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般外来診療 頻度の高い皮膚科的症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な皮膚科慢性疾患については継続診療ができる。</li> <li>2. 病棟診療 急性期の患者を含む皮膚科入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。</li> <li>3. 初期救急対応 緊急性の高い皮膚科の病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携できる。</li> </ol>
行動目標	<p>知識・診断</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚の構造、機能、皮膚病理学の理解に努める。</li> <li>2. 発疹学について理解し、正確に所見を述べられる。</li> <li>3. 緊急を要する皮膚疾患、病態に対応できる。</li> <li>4. 皮膚腫瘍（良性・悪性）について理解し、検査計画、治療計画をたてることができる。</li> <li>5. アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などの湿疹・皮膚炎群の診断、治療ができる。</li> <li>6. 蜂巣炎などの皮膚感染症について理解し、検査計画、治療計画をたてることができる。</li> <li>7. 患者と適切な医療面接ができる。特に入院患者に対する配慮が適切にできる。</li> </ol> <p>検査・治療</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 真菌鏡検、真菌培養が適切にできる。</li> <li>2. バッチテストやスクラッチテストができる。</li> <li>3. 疾患ごとに適切な血液検査・尿検査、画像検査を決定し、結果を解釈できる。</li> <li>4. 液体窒素冷凍凝固術を実施できる。</li> <li>5. 指導医の介助を受けながら皮膚生検を施行することができる。</li> <li>6. 指導医とともに、一般的外科的手技（切除、縫合、切開、穿刺、炭酸ガスレーザー）を実施できる。</li> </ol>

<p>方略 (LS)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間は4週間から32週間とする。</li> <li>・入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や皮膚科的疾患に対応するために、幅広い皮膚科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。</li> <li>・外来患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や皮膚科的疾患に対応するために、幅広い皮膚科的疾患に対する診療を行う外来研修を含むこと。</li> <li>・外来手術や中央手術室の手術を通して、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い研修を含むこと。</li> <li>・経験すべき症候 外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。 ショック、発熱、熱傷・外傷、膨疹、紅斑、びらん、潰瘍、丘疹、結節、腫瘤、痒み、疼痛、鱗屑、痂皮の症候 (14 症候)</li> <li>・経験すべき疾病・病態 外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。 アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、慢性多形性痒疹、紅皮症、多型滲出性紅斑、薬疹、SJS、TEN、尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡、IgA血管炎、アレルギー性血管炎、壊疽性膿皮症、スイート病、伝染性単核球症、蜂巣炎、皮膚潰瘍、尋常性乾癬、汎発性膿疱性乾癬、悪性黒色腫、基底細胞癌、有棘細胞癌、ポーエン病、乳房外パジェット病、類乾癬、菌状息肉症、血管肉腫 (29 疾病・病態)</li> </ul>
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価       <ol style="list-style-type: none"> <li>A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与</li> <li>A-2. 利他的な態度</li> <li>A-3. 人間性の尊重</li> <li>A-4. 自らを高める姿勢</li> </ol> </li> <li>Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価       <ol style="list-style-type: none"> <li>B-1. 医学・医療における倫理性</li> <li>B-2. 医学知識と問題対応能力</li> <li>B-3. 診療技能と患者ケア</li> <li>B-4. コミュニケーション能力</li> <li>B-5. チーム医療の実践</li> <li>B-6. 医療の質と安全管理</li> <li>B-7. 社会における医療の実践</li> <li>B-8. 科学的探究</li> <li>B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</li> </ol> </li> <li>Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価       <ol style="list-style-type: none"> <li>C-1. 一般外来診療</li> <li>C-2. 病棟診療</li> <li>C-3. 初期救急対応</li> <li>C-4. 地域医療</li> </ol> </li> </ol>
<p>責任者からの一言</p>	<p>皮膚病で悩んでおられる患者さんは非常に多く、諸君はこの患者さんのニーズに少しでも応えるよう努力して欲しい。</p>